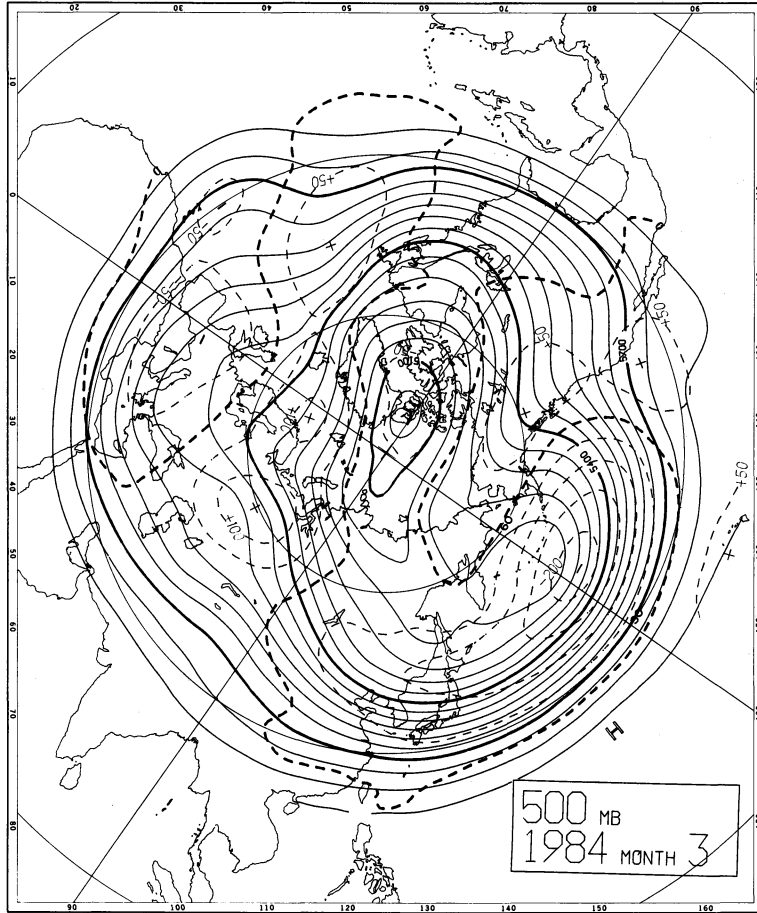


月平均 500mb 天気図. 1984年 3月.

(破線は平年からの偏差. 単位 m)



南北交換の大きい3月の大気大循環

極うずは北極海諸島にあり、トラフは北米東岸に延びた。中緯度の循環場は3波数型となり、負偏差が太平洋中部から日本付近と地中海方面で発達した。一方、正偏差はウラル山脈と北米西岸で顕著となった。北半球の東西指数(高度偏差の差: 40° N - 60° N)は1946年次来、第一位の低指数であった。また、太平洋中部の20° N帯も標準偏差で割った変動の分布で見ると、正偏差が顕著となり特徴の一つである。

日本付近の流れは3月になっても東方海上の低圧が取れず断続的に寒気が入り(東谷型パターン)、北陸や北海道で大雪となった。また、太平洋側を周期的に低

気圧が通り、南岸地方では雪日数が記録的に多くなった。

100mb面の特徴もほぼ500mbと同じだが、樺太付近に低気圧が現れ強い負偏差が日本から太平洋西部をおおった。一方極地方は正偏差が目立った。

月平均地上天気図の特徴はアリューシャン低気圧が非常に発達し(平年差-14mb)、アイスランド低気圧は弱く、スカンジナビア半島で+12mb、バフィン湾では+10mbとなった。東シベリアは高気圧におおわれ、中国からインド、アフリカにかけては強い低圧になった。

日本各地は極東域の東西指数の低極2位に対応して、記録的な寒さ、多雪となった。(平沼洋司)